

幸手市立行幸小学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

- 【全国学調】
- 平均正答率
- 【埼玉県学調】
- 学習方略・非認知能力の平均値
- 学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
①全国学力・学習状況調査 〔平均正答率〕 特に国語では「情報の扱い方に関する事項」、算数では「変化と関係領域」に課題が見られる。	→ タブレット端末の操作に対する更なる慣れが必要である。スライドや画面の操作をして資料を比較したり、確認・振り返りをしたりすることができるよう様々な教科学習をとおして取り組んでいく。
②埼玉県学力・学習状況調査 〔学習方略・非認知能力〕 学習方略及び非認知能力の全般的に課題が見られる。 〔学力の伸び〕 伸び幅が県平均未満である学年があり、課題が見られる。	→ 学習方略・非認知能力については、発達の段階や中学校区で育成したい力を意識し、教育活動全般をとおして取り組む必要がある。
③幸手市統一学力調査 〔平均正答率〕 全体的には、全国平均以上であるが、中・高学年の国語は全国平均に達しておらず課題である。 特に漢字や文章の読み取りに課題が見られる。	→ 全体的な平均正答率は、全国平均以上であるが、二極化の状況が見られ、個に応じた指導・支援が必要である。 国語においては、課題となる漢字や文章の読み取りに対し、プリントや端末等による取組を年間をとおして行っていく。

子ども一人一人のよさを見つけ伸ばす教育を推進します。

学校全体での取組

❁ 「笑顔でやりぬく みゆきっ子」の育成

児童が自分自身や集団の目標達成に向かって取り組む姿勢を励まし、称賛する。その中で「やりぬいた」達成感を味わわせ、新たな挑戦への意欲へつなげる。

❁ 業前時間を活用した基礎基本の定着

曜日ごとに、以下の取組を行う。
月：朝会・集会・学びタイム（国語・算数）
火：タブレットタイム（月2回）
水：おはようタイム（体育）
木：学びタイム（国語・算数） 金：読書タイム

❁ プリント及び端末による国語・算数の基礎力向上

紙ベースのドリルに繰り返し取り組むとともに、学習内容やレベルに応じた算数プリントやドリルパークを活用し、一人一人が自らのペースで学習を進める。達成枚数等に応じた達成賞や校長賞を設定することにより意欲を高め、内容の定着を図る。

学びを深める授業づくり

❁ 学ぶ喜びを実感する授業づくり

児童の気づきや発見・思考を大切に授業づくりに努め、わかる楽しさや学ぶ喜びを味わうことができるようにする。また、自己による学び・他者との学び合いを意図的に設け、学びを深めることができるようにする。

❁ 一人一台端末の効果的な活用

学習のねらい達成に向け、効果的に端末を活用する。また、活用方法を教職員が共有し合い、授業改善につなげる。

❁ 教科担当及びT・Tによる指導・支援の充実

中・高学年を中心としながら、専門性を活かした教科担当による授業を実施する。また、算数におけるT・Tを実施し、個に応じた指導・支援の充実を図る。

❁ 学び合う教職員

学校研究や校内研修等を活用し、教職員の指導力向上を図る。

落ち着いた学級づくり

❁ 学習に向かう姿勢の向上

児童の実態や発達の段階を踏まえ、学級（学年）や自分の目標の達成に向けて取り組む姿勢を育む。また、「見る（注目する）」「話を聞く」ことを基盤とし、学びを表出し、ともに高め合うことができるようにする。

❁ 他者を尊重する児童の育成

道徳科の授業の充実を図るとともに、体験活動の計画的な実施や自主的・実践的な特別活動を行う中で、児童の心を豊かにし、他者とともに学ぶことを楽しむ児童を育成する。

❁ 教育相談体制の充実

全教職員でみゆきっ子一人一人を育成することを大切にし、児童のよりよい成長に向け、相談、支援の充実を図る。

学校間連携・家庭連携

❁ 9か年を見越した非認知能力の育成

学力を支える重要な力である非認知能力の育成を図るため、中学校区として育成したい非認知能力について、学校教育活動全般で取り組むとともに、家庭・地域へ啓発を図る。

❁ 校区間連携

小・中学校それぞれの実態（児童生徒の様子や学習環境の違い、生活の決まりの違いなど）の相互理解を深め、9か年を見通して計画的・段階的な指導を図る。そのため、年間をとおして、対面・リモートによる部会を開催する。

❁ 長期休業中の取組

家族・地域とともに行う活動を推奨するとともに、学習の習慣化を継続し、既習事項の復習や課題に取り組むことができるようにする。